（別紙4（2））

事業所名　瑞穂ケアセンターあお空

作成日：　平成　22年　4月　19日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	法人の理念『七施』および、ホームの理念を掲げているが、定期的に復唱するなど徹底するための取り組みは行われていない。そのため、理念の本質についての理解が出来ている職員と出来ていない職員がいる。	掲げている理念の本質を理解し、理念について家族ならびに新入職員に職員個々が説明できるぐらいまでに浸透させる。	会議や職員行事を通じての、定期的な復唱と確認を行う。年間のまとめを通じて文書でも理念について、職員がいつでも確認が出来るように用意をする。すでに取り組みがスタートしている。	0ヶ月
2	45	3Fフロアーはご利用者状況から特に矛盾なく曜日を固定した週に3回の入浴日を設定して実施していたが、いつでも希望した時に入浴が出来たり、本人の気分で入浴を見送れる環境がなかったため、毎日入浴が可能になるように環境を整える必要がある。	入浴について、ご利用者の希望に応じて柔軟に対応できるように体制を整えるとともに、グループホームにおける入浴の位置づけと対応についての理解を職員間で深めていく。	会議により、毎日の入浴体制について検討し、現在は曜日を固定しない入浴の実施が行われている。すでに取り組みがスタートしている。	0ヶ月
3	35	災害対策について、地域との相互連携について運営推進会議を通じて話し合われているが、文書などによる明確な取り決めなどは行われていない。昨今のグループホーム火災のような事態に対応できるよう、応援体制について地域との連携を強化する必要がある。	非常災害時の相互連携について、共通理解のもと協力体制についての内容を文書化し、非常事態についての備えを強化する。	運営推進会議等を通じてグループホームの特殊性や課題について地域の近隣住民の皆様に理解を深めていただくとともに、その対応について相談・検討しガイドライン作りを進めていく。	6ヶ月
4	64	年間の家族の面会数はのべで400回を超えているが、友人やボランティアなど地域の方が足を運ぶ機会は少ない状況。人との交流の輪を広げていくことで、生活の場に広がりを作っていくことが必要と感じている。	定期的に地域の方の訪問が出来る下地を作り、ホームや入居者への理解の輪を広げていく。	日常的に地域の方が訪問できるように、ボランティアの方が定期訪問できる機会を設けたり、ホームの外に出る活動を通じて、交流の機会を設けていく。	6ヶ月
5					ヶ月

注）項目の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。